

5月31日は「世界禁煙デー」

～受動喫煙を知っていますか～

受動喫煙対策の法律の改正

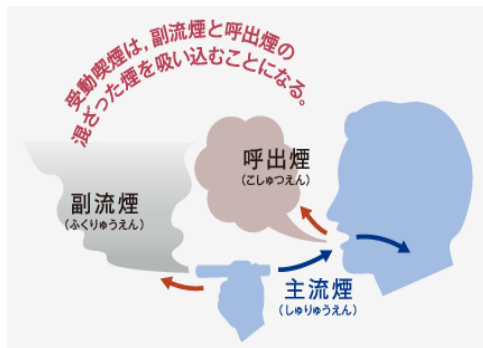
- ① 目的は「望まない受動喫煙による健康影響をなくす」ため、受動喫煙を望まない人が屋内で受動喫煙にさらされるような状況をなくします。
- ② 受動喫煙による健康影響が大きい子供、患者等配慮し、施設や屋外について、受動喫煙対策を徹底します。
- ③ 施設の類型・場所ごとに対策を実施。
施設において、利用者の違いや受動喫煙による健康影響の程度に応じ場所ごとに異なる喫煙ルールを定め、喫煙室には標識の提示を義務付けます。

受動喫煙とは

受動喫煙とは自分の意志に反してたばこの煙（副流煙）を吸わされることを意味します。文字通り、「受け身」の「喫煙」です。

たばこの煙には、喫煙者が直接吸い込む「主流煙」と、点火部から立ち上る「副流煙」があります。有害成分は低温の不完全燃焼時により多く発生するため、副流煙は主流煙よりも多量の有害物質を含むことが知られています。

また、喫煙者が吸い込んだ後に吐き出す煙を「呼出煙」と呼びます。



副流煙とは

紙巻たばこや葉巻、パイプなどの火をつけた部分から燃えて立ちのぼり、直接空気中にでる煙のこと。



世界禁煙デーの目標～肺の健康は禁煙から

世界保健機関は毎年5月31日を世界禁煙デーとして、たばこ使用と受動喫煙が重大な健康被害をもたらすという事実を広め、いかなる形のタバコ使用もすべきではないというメッセージを伝える機会として活動しています。

たばこの使用と受動喫煙を減らすことが、肺の健康を改善する最良の対策です。

病気の治療だけでは肺の健康を実現することは出来ません。たばこの煙をなくす対策をすすめることが全世界の喫煙者と非喫煙者の肺の健康を実現するために決定的です。

2030年までに非感染性疾病死亡の33%低下という持続可能な開発目標を達成するためには世界全体がたばこ対策を優先的に進める必要があります。



受動喫煙から身を守るには

飲食店の屋内は原則禁煙。学校・病院・行政施設は敷地内禁煙に

電車や飲食店は原則屋内禁煙。喫煙を認める場合は、喫煙室の設置が必要になり、違反した事業者には罰則が科せられることもあります。また20歳未満の人は、喫煙を目的としない場合でも、喫煙エリアへの立ち入りはできません。アルバイトで働く場合も同様です。

たばこを吸わない人は特に受動喫煙に注意

たばこを吸わない人は、たばこの煙に対する感受性が高く、煙を吸うと少しの量でも大きな健康影響を受けると報告があります。煙に近づかないように注意してください。

出典：厚生労働省 HP「たばこと健康」より
e-ヘルスネット「受動喫煙防止」より